

● FAOPS2019 & ADInstruments Teaching Workshop 報告

群馬大学大学院医学系研究科応用生理学 鯉淵 典之

FAOPS2019の前日より二日間、2019年3月27日～28日にかけてFAOPS2019と同じ神戸国際会議場において、FAOPS2019サテライト企画として生理学教育ワークショップ（WS）が開催されました。参加数は当初予定されていた100名を上回り114名が参加し、FAOPS大会の際に企画される生理学教育サテライトとしては最大数の参加者となりました。また、IUPS京都大会の際に開催された生理学教育サテライトWSの参加者数も上回りました。WSにご参加いただいた方々、開催に際し、ご支援をいただいた日本生理学会の会員の皆様、丸中理事長をはじめとする理事長・副理事長・理事の皆様、そして大会実行委員の皆様にご感謝いたします。（図1）

2011年、FAOPS台北大会においてFAOPS大会の日本開催が決定した際、生理学教育を通じて知り合ったアジア各国の友人から「8年後のワークショップは君がするんだね!」と言われ、FAOPS本大会に加えて二重の責任の重みから、大変複雑な気持ちになりました。気を取り直し、帰国後に当時の日本生理学会教育委員会にて教育ワークショップ開催の是非を持ちかけると「教育委員会が中心になって成功させましょう!」と委員の先生方から背中を押していただきました。ま

た、IUPS京都大会時の教育WS会長であった松尾理先生からも励ましのお言葉をいただき、大変心強く思いました。教育委員会には、IUPS京都大会時の教育WSの実行委員が多く残っており、その際のノウハウも生かせると考えました。

その後、IUPSバーミンガム大会やFAOPSバンコク大会などの生理学教育WSや、アジア各国の生理学会などに招聘された機会を利用し、欧米やアジア地域の生理学教育研究者から情報を収集するとともに、どのようなテーマで教育WSを行うか、そのためにはどのような国際プログラム委員会を組むかという点を色々な方と相談しました。そして、実際のプログラムを考え始め、教育委員会にて素案を提示したのは2015年FAOPSバンコク大会の後になります。教育委員会委員の方々に実行委員も兼任していただくこととし、私が大会長に、また、女子栄養短大の渋谷まさと先生に実行委員長をお願いすることとしました。また、国内実行委員の話し合いにて大会のテーマをアクティブラーニングとし、「Blossoming the Future of Active Learners（花開け！アクティブラーナーその未来）」というメインテーマを作りました。そしてアジア地域の教育研究者の助言もいただきながら国際プログラム委員の候補を選び、依



図1. FAOPS2019 & ADInstruments Teaching Workshop 参加者集合写真

表1. 参加者一覧 (地域・国別)

| No. | 地域・国名 | 一般参加者 | 同伴者 | No. | 地域・国名 | 一般参加者 | 同伴者 |
|-----|-----------|-------|-----|-----|-------------|-------|-----|
| 1 | Australia | 4名 | | 9 | New Zealand | 2名 | |
| 2 | Brazil | 1名 | | 10 | Pakistan | 5名 | |
| 3 | Canada | 1名 | 1名 | 11 | Qatar | 1名 | |
| 4 | China | 19名 | 6名 | 12 | Singapore | 1名 | |
| 5 | India | 1名 | | 13 | Sri Lanka | 5名 | |
| 6 | Indonesia | 13名 | 1名 | 14 | Taiwan | 1名 | |
| 7 | Japan | 44名 | 1名 | 15 | USA | 1名 | |
| 8 | Malaysia | 5名 | | 16 | Viet Nam | 1名 | |
| | | 小計 | | | | 105名 | 9名 |
| | | 総計 | | | | 114名 | |

頼のメールを出したところ(当時、旅費のサポートができるかどうか不明だったが)多くの方が快諾し、プログラム作成が始まりました。そして基調講演2題、ワークショップ5つ、シンポジウム&パネルディスカッション1つという構成となりました。また、最終的にはランチョンセミナーも2つ獲得することができました。さらに、日本生理学会からのご支援とADInstrumentsのProf. Tony Macknightのスポンサーシップにより、トラベルアワード20名と海外からの講師やfacilitatorや講演者の旅費の一部もサポートができました。

その一方、心配だったのは参加者数です。FAOPSやIUPSの教育WSに参加した経験では、WSは数日間余計に滞在する必要があるため、参加者は開催国からの参加が中心でした。しかも、WSは通常の学会と違い、少人数での英語でのdiscussionが中心となります。そのような状況でどの程度の参加者が集まるのか、大変不安でした。FAOPS2019の広報活動を通じての教育WSの広報に加え、FAOPSやIUPSの教育者向けのメーリングリストでの広報、そして国際プログラム委員の先生方や国内実行委員の先生方の地道な広報活動のお陰で、最終的には同伴者も含めて114名の参加者がありました。しかし、アジアの複雑な国際事情を反映して、当初参加する予定だった一部の方々为国境閉鎖のために参加がキャンセルとなり、残念な思いもしました。(表1)

大会はIUPSのEducation CommitteeのChairのRobert Carroll教授の基調講演から始まり、引き続きWorkshop1で症例問題を用いた生理学教育法へと進み、小グループに分かれ、症例問題を作成しました。また、ポスター発表も36演題が

集まり、活発な討議が行われました。その後も反転授業、実習を用いたアクティブラーニング、研究室配属などのグループ討論形式のワークショップ、および生理学教育の国際共同研究をめざしたパネルディスカッションなどが続きました。日本国内からも44名の参加者がありましたが、教育の専門用語に不慣れな事や、小グループ討論形式のワークショップに慣れていない方もおり、戸惑っている様子も時に見受けられましたが、頑張っている様子も時に見受けられましたが、頑張って討論に参加しておりました。(図2、写真4枚)

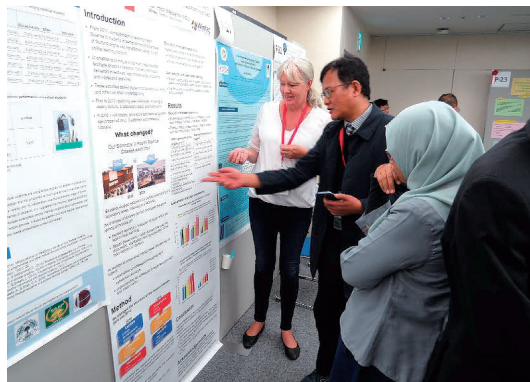
医歯薬分野の教育は国際認証が始まっており、生理学教育についても国際的な均質化が進んでいます。そのため、実習では教育資源が限られている国もあるものの、教育技法に関しては、同じ土俵上での議論ができます。議論を通じ、各国の教育研究者が、どのように学生たちに深い学び(deep learning)をさせるか、色々な試行を続けていることが判り、大変参考になりました。また、「過去問しか勉強しない学生」、「過去の講義資料のコピーが出回る」、「授業に出席しない」、「意欲がない」、「何事にも受け身」、の学生に対する悩みなど、各国で驚くほど問題点が共通していることも判り、興味深い大会となりました。そして、2年後のIUPS北京大会の教育WSでの再会を約束して大会は閉幕しました。

今回のワークショップで得た情報は早速活用し、大学の教育カリキュラムの改善に役立てようと思っております。さらに、ワークショップ形式のセッションは日本生理学会大会でも行うべく、教育委員会の先生方と準備を始めました。

最後に、大会の開催にあたり、ご助力とご助言をいただいたすべての方々にもう一度感謝申し上げます。



Carroll 教授の基調講演



ポスターセッション



ワークショップ中の討論



ワークショッププロダクトの報告

図 2.